

第6学年国語科学習指導案

日時 平成16年11月16日(火) 2校時
児童 男子4名 女子1名 計5名
指導者 村 井 雅 子

- 1 単元名 言葉と文化について考えよう
教材名 外来語と日本文化 現代を生きる五音、七音
「言葉と文化」展示館へ、ようこそ

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元『言葉と文化について考えよう』は大きく2つのことをねらいとしている。1つ目は、外来語と日本文化について関心を持ち、文章を叙述に即して正確に読んで要旨をとらえ、それに対して自分の考えをもつことである。2つ目は、言葉と文化について興味を持った課題について取り組み、それを分かりやすくまとめることである。

第1教材「外来語と日本文化」は、普段何気なく使っている外来語の由来について述べた説明文である。多くの事例を挙げ、文章の結びでは筆者の考えが簡潔に示されているので、内容が理解しやすい。また、今では全く別の意味で使われている言葉が元々は同じ意味をもっていたという事実は、子どもにとって驚きであり、自分の課題作りへのヒントになり得る。第2教材「現代を生きる五音、七音」は、古くから日本に伝わり現代も生き続ける伝統的表現方法にふれることで、日本の言語文化の一面を知ることができる文章である。声に出して読んでリズムを感じ取ることによって、文章に書かれている内容をより理解できると思われる。第3教材『「言葉と文化」展示館へ、ようこそ』は、子ども自身の手で言葉を集め、作品を集めることによって、自分たち自身で言葉と文化のかかわりの様子を実感することができる教材である。

(2) 児童について

子どもたちは、これまでに、「読むこと」の学習として「火星に生命をさぐる」で、視点をもとに事例を整理して読み、文末表現に着目して筆者の考えをとらえる学習を行った。この学習により、事実や事例と考えを区別して内容を的確に読み取る力を伸ばすことができた。また、筆者の考えについて自分なりの考えをもつことができるようになってきている。さらに、接続語や指示語の役割を考えながら読むことができる子どももいる。しかし、個人差が大きく、とくに一人学びに要する時間の差、内容の差は大きい。また、事例を整理するときなど読んでいく際、どんな視点で整理していけばよいかを自分たちで考えるまでには至っていない。

「書くこと」については苦手意識を持っている子どもが多い。あるいは書くことはできるが、分かりやすく書く、表現の効果を考えて書くといったことが苦手で、内容に深まりがない子どももいる。

人数が少ないので話しやすい雰囲気であるが、友達が言ったことに対して付け足したり質問したり、意見を述べたりということがあまりないので、なかなか考えを深めることができない。

(3) 指導について

本単元では、読むことに関わって、「目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること(読イ)」「書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと(読工)」という基礎・基本の定着をはかるために、事例に注意しながら内容を的確に押さえ読み、文章を要約するという言語活動を行う。

そのために、まず、単元に対する興味・関心を高めるために、現在は外来語を使うことが一般的な言葉を日本語で表してみるなどの学習活動を行う。

さらに、正確に読み取るために、事例に挙げられていることに共通する内容から視点を決めて整理することができるようにする。また、文章を要約するにあたっては、指示語が指している内容を言い換えたり補ったりして、分かりやすくまとめることができるようにしたい。

3 単元の目標

言葉と文化について関心をもち文章を読んで要旨をとらえ、自分の課題をもつ。自分の課題について取り組んだことを分かりやすくまとめ、「言葉と文化」展示会を開く。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】 言葉と文化について興味をもち、文章を正しく読んだり、課題について進んで調べて分かりやすくまとめたりしようとする。

【読むこと】 ・言葉や文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。

・書かれている内容について、事実や事例と筆者の考えの関係を押さえ読み、自分の考えや課題をもつことができる。

【書くこと】 各自取り組んだ内容を効果的に表現するために、発表の形を工夫し分かりやすくまとめている。

【言語事項】 語句の由来や日本の伝統的な言葉のリズムに関心を持つことができる。

5 指導計画（読むこと5 書くこと6 11時間扱い）

過程	時	指導目標	学習活動	重点指導の内容
つかむ	1	学習の見通しをとらえる。	・全文を読んで、学習の見通しをもつ。	・クイズ形式で外来語を考えさせ、興味を持って学習に取り組むことができるようにする。 ・単元の見通しをもつことができるようにする。
ふかめる	2	文章の内容を的確に押さえながら読んで要旨をとらえ、要約する。	・「外来語と日本文化」を読み、課題をつかむ。	・文末表現に着目し問いかけの文を見つけ、指示語を言い換えて問題提示文を作ることができるようにする。
	3	自分の考えを明確にしながらかく。	・外来語の意味と伝わり方を読み取る。	・外来語が日本に入ってきた経緯について、事例を視点にそって整理しながら、正確に読み取ることができるようにする。
	4		・外来語と日本文化の関わりについて読み取る。	・筆者の考えをとらえ、それを中心にキーワードを入れて要約文にまとめることができるようにする。
	5		・「現代を生きる五音、七音」を読み、日本文化や日本語のリズムに親しむ。	・声に出して読みながら日本独特の言葉のリズムを味わうことができるようにする。 ・筆者の考えについて自分の考えをもつことができるようにする。
ひろげる	6	調べたことを分かりやすく伝えるために効果を考えながらまとめる。	・言葉と文化についての展示コーナーを作る計画を立てる。	・教材文を参考に、言葉や文化について興味を持っていることや疑問に思っていることを話し合い、自分の課題を決めることができるようにする。
	7		・言葉と文化について、調べ方やまとめ方を学ぶ。	・いくつかの例を示し、調べ方やまとめ方の参考にすることができるようにする。
	8		・自分の課題について調べる。	・自分の課題について、目的にあった方法で（本、インターネット、アンケートなど）調べることができるようにする。
	9 10		・調べた材料をもとにまとめる。	・例を示し、分かりやすい発表になるように工夫できるようにする。
まとめる	11	友達の作品に興味をもって見る。	・展示会を開く。	・発表の内容について評価し合い、次に生かすことができるようにする。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

もともと同じ意味を持つ言葉だったのに意味が違ってしまったわけをとらえることができる。

(2) 展開 (3 / 1 1)

過程	学習活動と内容	個に応じた指導	評価
つ か む	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 もともとと同じ意味を持つ言葉だったのにどうして意味が違ってしまったのだろう。3つの事例をもとに考えよう。	・指示語を置き換えてつくった課題提示の文について思い起こさせる。	課題をとらえることができたか。 (発言・態度)
ふ か め る	3 整理する項目について確認する。 4 学習範囲を音読する。 (P33L4~P36L8) (リレー読み) 5 3つの事例について整理する。 (個 グ) 6 3つの事例について確認する。 (全) 7 課題についての答えを考える。 (全)	・「いつ」、「どのようにして」取り入れられたのかという項目で整理することを確認する。(形式段落 に着目) ・表の形式でまとめることができるように板書に位置づける。 ()に言葉を当てはめるワークシート(表の形式)を用意する。 一つ目の事例について対話しながら整理する。 ・教材文にかえって確かめる。	3つの事例について整理することができたか。 (ノート) 課題の答えをとらえることができたか。 (発言・サイドライン)
ま と め る	10 本時の学習を振り返る。 (個) 11 学習のまとめとして音読する。 (P36L9~P37L8) (指名)		
広 げ る	12 次時の学習を確かめる。		

評価規準

【読むこと】

A もともとと同じ意味を持つ言葉だったのに意味が違ってしまったわけを3つの事例と結びつけてとらえることができる。

B もともとと同じ意味を持つ言葉だったのに意味が違ってしまったわけをとらえることができる。

Bにいたらない子への支援

答えが書かれている形式段落を確かめ、「意味のちがいは」という言葉に着目して考えるように助言する。

【言語についての知識・理解・技能】

外来語が日本に入ってきた歴史を理解している。

【関心・意欲・態度】

3つの事例を項目ごとに整理し、言葉の意味が違ってしまったわけを考えようとしている。